



CISM資格のご紹介

2.16.2019 / ISACA東京支部

AGENDA

1. ISACA 資格およびCISM資格について
2. CISM資格の受験について
3. その他のCISM委員会での活動について

AGENDA

1. ISACA 資格およびCISM資格について
2. CISM資格の受験について
3. その他のCISM委員会での活動について

ISACAの認定資格およびCISM資格について

ISACAの資格プログラムの現状については、以下のとおり。

資格



情報システムの監査、
およびセキュリティ、
コントロール(1978-)

146,000+
(3,029)

専門
領域



セキュリティマネジメント
(2003-)

43,000+
(529)



リスクマネジメントと
コントロール
(2010-)

25,000+
(161)



ITガバナンス
(2008-)

8,000+
(116)

認定者
(カッコ
内は
東京)

CISM：情報セキュリティマネジャー資格

- 情報セキュリティ管理の知識と経験を認定する国際的な専門資格
- 認定要件：試験合格 + 実務経験 + 倫理規定
実務経験：5年（情報セキュリティ3年以上）

国内：529名 / 海外：約4万3千名



CISM：資格取得のメリット

ドメインは以下の4つであり、ほとんどの事業体にて課題となっている領域であり、CISM資格はこの領域に特化した知識と経験に焦点を当てています。

- **情報セキュリティのガバナンス**
ガバナンスの枠組みの確立および維持による、情報セキュリティ戦略が組織の目標と目的と一致することを保証すること
- **情報セキュリティリスクの管理**
組織の目標と目的を達成するために、リスク選好度に基づき、リスクを許容レベルまで管理すること
- **情報セキュリティプログラムの開発と管理**
組織の資産を識別、管理、保護し、情報セキュリティ戦略とビジネス目標に合わせて効果的なセキュリティの取り組みを支援するプログラムを開発し、維持すること
- **情報セキュリティインシデントの管理**
インシデントを検出、対応および回復させる機能を計画し、確立および管理を行なうことによってビジネスへの影響を最小限に抑えること

CISM資格者数の推移

資格者数については、この3年増加傾向にあります。
世界においてもCISM資格者数は増加傾向にあります。(約34,000/昨年)



CISM資格の価値（私案）

- IoT、クラウドなどの新技術やITの利用形態の変化などは事業体にとって「道具」でしかなく、「道具」を利用することだけでは、事業体が求める価値は得られない。
- これら「道具」を利用するためには、適切な管理・統制の仕組みを構築・維持する必要がある。（見えないものは管理困難）
- その中で「セキュリティ」に関する管理の仕組みを体系的に取り纏め、必要とされる知識・能力を有しているのかを評価するのがCISM資格ではないのか。
- このような知識・能力が現在の事業体に求められている。

ただし、欧米の企業モデルをベースに取り纏められているため、日本においては各社向けに仕立て直す必要がある。

AGENDA

1. ISACA 資格およびCISM資格について
- 2. CISM資格の受験について**
3. その他のCISM委員会での活動について

CISM試験の概要

- 四者択一問題 150問
- 回答時間 4時間
- コンピュータテスト (試験場で受験)
- 試験終了直後、その場で合否判定(暫定)



CISM試験を受験するには

- **受験地** : 国内主要都市 (札幌、東京、那覇、 etc.)
- **試験日** : ほぼ通年
- **受験料** : ISACA会員 \$575 (非会員\$760)

お申し込みはオンラインで



CISM試験に向けて準備するには・・・

主に3つの方法があります。

自習用教材の利用

CISM委員会が主催するレビューコース

国際本部が提供するオンラインレビューコース

まあ、他にも外部の教育プログラムがありますが、ここでは割愛・・・。

CISM試験向けリソース：①自習用教材

➤ CISMレビューマニュアル第15版

➤ 会員価格：\$105



➤ CISMサンプル試験問題解答解説
第9版

➤ 会員価格：\$120



CISM試験向けリソース：②レビューコース

- 日本人講師による2日間の解説コース
- 開催場所：日本教育会館(神保町)
- 料金：会員18,000円、非会員25,000円
- 開催日はISACA東京支部Webにて！
(**次回は3月30日(土) / 31日(日)に実施**)
「レビューマニュアル」に基づき実施するため、別途レビューマニュアルを準備していただく必要があります。



CISM試験向けリソース：③オンラインレビューコース

- オンライン・セルフペースでのトレーニング
1年間のアクセス期間が提供されます(英語のみ)
- トレーニングの時間 約17時間(21CPEs)
- 料金 : 会員\$ 795、非会員 \$ 895
- 詳細は国際本部のページを確認下さい
<http://www.isaca.org/EDUCATION/ON-DEMAND-LEARNING/Pages/cism-online-review-course.aspx>

AGENDA

1. ISACA 資格およびCISM資格について
2. CISM資格の受験について
3. その他のCISM委員会での活動について

その他のCISM委員会での活動

2018年度、委員会有志によって特定のテーマを選定し、検討を行いました。

今後、資料の公開を含め調整します。

IoTセキュリティの現状と今後の見通し2018

2018/12/23
CISMリサーチプロジェクト2018
メンバー：小林 清志
斉藤 孝明
佐伯 満
玉木 誠
長久 浩三
村田 実

(C) ISACA Tokyo CISM Committee, 2018

1

1.2 業種毎の経緯・課題・対策状況

1.2.1 農業・林業・水産業・鉱業

(1) IoTの経緯と課題及び対策状況

IoTとしての過去の経緯と課題及び対策の方向性は概ね下記のとおりである(農林水産省のサイトより)。

■IoTの状況

日本再興戦略2016(平成28(2016)年6月閣議決定)では、農業、医療、介護等の分野でAI、IoT、ロボット等の技術を活用していく方針が示され、中山間地域等で担い手不足が深刻化する中、農業者の参画も得て、画期的なこれらの技術開発を、その販売価格等の開発目標を明確にして進めることにより、生産性の向上を図っていくことが重要である。農業分野におけるIoT技術の中には既に実用化され、農業経営で実践されているものもあるが、農林水産省では、農業者の参画を得て新たなIoT技術の開発を資金面で支援することにより、更なるIoT技術の開発・実用化を促進している。

■IoT全体の課題と対策の方向性

課題	AIやIoTを活用しての対策
就業者の減少・人手不足	<ul style="list-style-type: none">ロボット化・自動化された超省力農業誰もが取り取りやすい農業クラウドサービスによる関係者間の連携強化と効率化ロボットセンサー(UAV)を導入、農作物や森林樹木等を上空から柔軟に把握する体制の確保
収益性の確保	<ul style="list-style-type: none">データや科学を駆使した生産性の向上運搬車両と人の位置把握による効率化
未知のリスクの顕在化	<ul style="list-style-type: none">温暖化等の新たなリスクに予測して対応できる農業・林業・水産業
生産・流通・消費の連携・効率化	<ul style="list-style-type: none">マーケットイン型の農業の実現シェアリングや情報共有などによる効率化

(C) ISACA Tokyo CISM Committee, 2018

8

(2) IoTセキュリティの経緯と課題及び対策状況

農業・林業・水産業の特徴は、各種機器の導入にともなうコスト(カバー範囲の広さ、通信距離の長さ、屋外設置の対応等による)と単位面積当たりの生産高との比率が他の業界と比較して高くなりやすいという課題がある。

このため、以下のような対策がとられている。

- 少ない消費電力で広いエリアをカバーし、正当性、機密性が確保できる無線通信方式の導入
- センサー機器等の簡素化によりコスト低減を図る設計
- 長期間メンテナンスフリーで利用可能な安定性と堅牢性のある構造

※ なお、ドローンや車両位置情報等を活用するものについては、運輸の章にて扱うものとし、ここには含まない。

■IoTセキュリティの状況

農業・林業・水産業のIoTについては、主として極めて少ない帯域で利用されることが多く、また無線通信に使用する方式が簡易でありながら一定のセキュリティ機能を有し正当性や機密性の確保がされているものが大半である。但し、センサー機器の接続先となるゲートウェイ機器は一般的には、UNIXベースのOSが用いられておりそのセキュリティ対策としては、一般的なパソコンなどのセキュリティ対策と同様になされることが推奨されている。

■IoTセキュリティ全体の課題と対策の方向性

- コスト低減の観点から、データの蓄積には、クラウドサービス等が活用され、今後も当面はその方向性は大きくは変わらないとみられている。農場に設置するようなセンサー機器には、より一層のコストダウンが求められている状況であり、データの蓄積やセキュリティ機能などの搭載は進んでいない。
- データの蓄積は、一般的にはクラウドサービス等で行われ、人工知能を活用した分析サービスや各種管理用のデータ基盤として活用されている。こちらのセキュリティ対策は、他の業界と大きく変わることはない。
- 今後、複数の多様なセンサー機器を搭載し高度化が進んだ場合、センサー機器にも他産業と同様に高度なOSを利用したシステムが配置されることが想定される。この場合は、従来のインターネットに接続したパソコンなどと同様なセキュリティ対策が求められることが想定される。

(C) ISACA Tokyo CISM Committee, 2018

9



参考資料

カンファレンスにおいては、説明を行いません。

CISM試験の申し込みについて

Key Exam Registration Dates:
1 February-24 May 2018 Testing Window

1 December 2017	Registration Opens
16 February 2018	Early Registration Deadline
18 May 2018	Final Registration Deadline

国際本部のホームページから申し込み可能
<http://www.isaca.org/Certification/CISM-Certified-Information-Security-Manager/Pages/default.aspx>

CISM試験の申し込みの詳細については

以下の「受験者情報ガイド」にて確認してください。

http://www.isaca.org/Certification/Documents/Candidates-Guide-Feb-May-2019_exp_Eng_0119.pdf

「試験受験者情報ガイド」については、2019年度版は現時点で英語版のみ

(日本語版は現時点では2018年度版のみ)

http://m.isaca.org/Certification/Documents/2018-ISACA-Exam-Candidate-Information-Guide_exp_Jpn_0518.pdf

実際の試験申し込みの手続については、以下のリンクを参照してください

<http://www.isaca.org/Certification/PublishingImages/4-steps-to-taking-an-exam.pdf>

